

付加価値創造と地域への貢献

青木良輔

(秋田青木精機株式会社 代表取締役)



■会社概要

当社は1989年に、秋田県と北秋田市(旧合川町)の誘致企業として現在地で創業しました。埼玉県熊谷市の青木精機工業(株)(1969年設立)が親会社で、グループ会社として中国に上海青木精密機械有限公司(2004年設立)、スロバキアにAOKI SLOVAKIA s.r.o(2013年設立)、合弁会社としてタイにSIAM NDK CO.,LTD(2003年設立)を展開しています。

当社は国内唯一の製造拠点であり、また海外拠点のマザー工場として重要な役割を担っています。

現在主力製品であるターボシャフトにおいては世界生産シェアの1/3以上を堅持しており、世界のターボチャージャーメーカーに部品を供給しています。



【本社工場・事務所】

■これまでの歩み

当社は当初、自動車メーカーの系列で自動車用オートマチック関連部品の製造拠点としてスタートしました。1997年頃から系列が崩壊し、取引先親会社が自動車メーカー資本から電気製品関連メーカー資本となり、青木グループは、系列からの脱却を図り、当時引き合いを頂いた米大手ターボチャージャーメーカーのターボ部品へ転換していきました。

ターボシャフトは、ターボチャージャーの中心部にある部品であり、1,000℃近い排気ガスが直接吹き付ける場所にあり、かつ1分間に20万回以上回転するなど、過酷な環境のもと動き続けなければなりません。このため、硬度、寸法等他の部品よりも厳しい品質を確保しなければなりません。例えば、寸法ではマイクロメートル(1/1000mm)単位での精度を要求されます。

世界でターボチャージャーの装着率が増加した2010年代には新規参入する企業もありましたが、世界生産シェアNo.1を10年以上にわたって維持できているのは、高い生産技術と品質の信頼性に取り組んできた当社に一日の長があったからだと自負しています。



【当社のメイン製品:ターボシャフト】

■苦難を乗り越える

親会社の創業から50年、当社の創業から30年以上が経ち、すべてが順風満帆ではありませんでした。これまでに何度か会社の存亡に関わる大きな苦難に直面したこともあります。

一つ目は、前述の自動車系列会社からの脱却です。当時は系列会社でしたから、青木グループの顧客は1社だけ、営業活動をしなくても勝手に仕事は来るような感じで、言われたものをただ作ってあげればよいという製造活動から、自ら営業して開拓していくという製造活動に変化しました。その当時は必死になって出来るものは何でも挑戦するというで乗り越えることができました。

二つ目は、2008年のリーマンショックです。受注が一気に落ち込み資金も枯渇する寸前でした。人員削減などを余儀なくされましたが、ターボ関連部品は、この当時はちょうどディーゼルエンジンからガソリンエンジンへ普及がすすみ、顧客との良好な関係から早い段階で持ち直すことが出来ました。また資金面では、秋田銀行さんをはじめ金融機関のご支援により、大きな荒波を乗り越えることが出来ました。

三つ目は今年1月に発生した新型コロナウイルス感染です。春節後中国当局の指示により休業を余儀なくされる期間はありましたが、2月10日

からどうにか操業再開にこぎつけることができました。再開するまでは工場内感染対策や、従業員の健康状態把握などの準備において現地スタッフも苦勞したはずですが、原稿執筆時点で上海の従業員には感染者が出ていません。また日本や欧州でも感染者が発生しており、感染や経済への影響など予断を許さない状況ですが、社員の意思結集のもと必ずやこの苦難を乗り越えていくものと信じています。

■自ら考えて行動する社員を育てる

製造業として必要不可欠な加工機械は、この30年で大きく進化しています。基本的には自動化が進み、一人の作業者が何台もの機械を受け持つ「多台持ち」が一般的になっています。

加工は機械任せのイメージがありますが、多くの機械をいかに無駄なく効率的に回し、工程間のロスをなくして生産性の向上に結びつけるか等、常に「カイゼン」に取り組むよう意識付けしております。

当社では社員の意識の高揚を図る観点から、「改善提案制度」を設けています。2018年までは個人応募で、毎年ほぼ100%の提出率でした。昨年、10人前後のグループでの提案活動を試行し、11月には発表会を開催しました。これまでに多くの提案が出ていましたので、そろそろ出尽くしたのかなと思っていましたが、今までにない斬新なアイデアで各グループとも素晴らしい発表をしていただきました。

現場の身近な問題は現場で作業している社員が一番知っており、それを解決するためにどうしたら良いかを一人ひとりが考えていき、その考えをオープンにできるような風通しの良い会社になりたいと思っています。

製造業において現場の声は会社の宝です。これからも社員の声に耳を傾け、会社の財産として積み上げていきます。

■海外拠点との交流

海外のグループ企業として、中国とスロバキアに製造拠点があります。

品質に関してはグループ内で同じ水準を維持しなければなりません。生産ラインの開発や、製造原価を抑える手法の確立、材質や工程の改良などは、秋田青木精機がマザー工場として海外拠点に定期的に人員を派遣し指導する役割を担っております。

こうした活動のなかで、交流会も定期的を開催しており、主に技術の指導・教育を実施しております。昨年6月には上海やスロバキアから数名ずつが来社し品質と生産性の向上、社員間の交流を図っております。各国の文化・風習の違いから、すべてにおいて日本と同じというわけにはいきませんが、逆に日本が学ぶべき良い点も多くあります。今後も各拠点の交流をはかりながら、各国の良い点を融合させて青木グループの文化を作り上げていき、世界シェアNo.1にふさわしい企業グループを目指していきます。

■今後の展望

当社の主力製品であるターボシャフトは、EV化等の流れで今後5年程度は伸びていくものの、その後は減少傾向には入ります。10年先も現状の水準程度の需要はあると推定されますが、その先を見据えれば、新しい分野にも取り組んでいかなければなりません。

技術の確立には5～10年の長い期間を要します。今から次の展開に対する準備をしなければ

間に合いませんので、時代の潮流を見据えながら様々な方策を考えているところです。

幸い当社は、素材から完成品まで社内で一貫生産を続けてきたことから、熱処理、切削、研磨の技術において蓄積があります。特に金属加工においては、これらの工程は避けて通れないものであり、次の展開にも活用できるものです。



【本社工場:熱処理設備】



【第二工場:切削・研磨設備】

■地域活性化のために

当社が現地に創業を検討した昭和から平成にかけては、地方での豊富な労働力が背景にありました。しかし、いま秋田県は人口減少が全国一進んでおり、少子高齢化が年々進んでおります。ここ北秋田市でも、求人難儀している状況にあり、当社社員の平均年齢も40代後半になってきました。幸い創業当初から勤務している社員も多く技術の伝承はできておりますが、今後は人材を確保しやすい「地域を代表するよ

うな会社組織」を構築していく必要があると感じています。

2018年12月には、秋田銀行さんからの推薦で経済産業省から「地域未来牽引企業」に選定されました。これは、地域の特性を生かして高い付加価値を創出し、地域の事業者等に対する経済的波及効果を及ぼすことにより地域の経済成長力を力強く牽引する事業をさらに積極的に展開することを期待される事業者です。

今後さらに高い付加価値を創出して地域に還元し、投資や人材を呼び込む好循環の形成を目指して参ります。



地域未来牽引企業

■最後に

自動車業界はEV化や自動運転等、100年に一度の大変革期と言われております。

技術革新の変化もめまぐるしく、「日進月歩」どころか「秒進分歩」の時代と言われており、これまでは、共通のスキルを持つ社員がチームワークを発揮し、工程の改善や品質向上に成果をあげてきましたが、これからは同質性より時代の変化に柔軟に対応できる多様性が求められる時代になっていくのではないのでしょうか。

時代の変化をとらえ、真摯にお客様と向き合いながら、期待を超えるクオリティで応えること、そして時代のニーズをしっかりと見据えて柔軟な発想により新しい価値をクリエイトする会社を目指していきたいと考えております。

会社概要

1 会社名	秋田青木精機株式会社	8 年 商	12億385万円(2019年12月期)
2 代表者名	代表取締役 青木 良輔	9 従業員数	110名(2019年12月末)
3 所在地	〒018-4231 北秋田市上杉字金沢417-2	10 青木グループ基本理念	『私たちは常に時代を先取りし、すべての顧客の満足のために質の高い製品を適正な価格で迅速に提供することを尽くす』
4 TEL	0186-78-4078		
5 FAX	0186-78-2405		
6 設立	1989年(平成元年)5月		
7 資本金	8,976万円		